

## 鶺鴒中央自治会

### 鶺鴒中央自治会の成立

もともとは下鶺鴒地域として存在していたが、新しく団地が形成されていったことにより、平成25年4月に鶺鴒西自治会から独立し鶺鴒中央自治会となった。現在は120世帯近くが生活している。自治会役員は2年に1回交代する任期制となっており、役員の子交代や仕事内容の引継ぎ促進のきっかけとなっている。全役員が一斉に代わるため、前会長が新しい役員活動をサポートしていく体制が作られている。

### 親睦交流

恒例のシルバーの集いは、毎年敬老の日の近くで開催し、会食等で盛り上がる。会には子どもも参加できるようになっており、子どもたちが歌や踊りを披露する企画も設けられている。

夏には下鶺鴒集会所で盆祭りを行い、子どもたち中心に盛り上がる。近年は近隣自治会と合同でビッググループ滝沢の盆まつりにも出店をした。また、盆のお墓参りの時期には盆踊りを開催し花火をあげる等、お祭りや新年会等の恒例行事を中心に親睦を深めている。



シルバーの集い

### 道路をきれいに

鶺鴒中央自治会では年に3回、クリーン作戦に取り組んでいる。自治会内の大人が中心となり、道路の草取りを行い、清潔さや安全を守っている。

自治会内がチャグチャグ馬コのルートになっているということもあり、景観を守り、気持ちよく観覧してもらえるよう、草を刈る時期にも工夫して取り組んでいる。

### さらなるつながりを

鶺鴒中央自治会には農家の方が多く、農家組合が主催する収穫祭なども行われている。収穫祭には毎年多くの子どもたちが参加しているため、今後は自治会と農家組合が協力して開催したいと考えている。共同開催することで、役員負担を軽減することができる。集客面でも様々な年齢層の参加を呼び掛けることができ、世代間のつながりも深まると思われる。また、新しい団地の住民との交流のきっかけにもなればと考えており、さらなるつながりを期待している。

### 時代に合わせた新たな活動

今後の展望として、一人暮らしの要介護者や高齢者を見守るための「安心見守り組織」の設立の案が上がっている。となり近所での付き合いを深くする、ご近所同士で気掛け合うといった内容の仕組みを作ってはどうかという声も多数あがっており、今後力を入れていきたい。

コロナの影響によりほとんどの行事を開催できない今だからこそ、今後新たに活動するための準備を進めようと考えている。地域内でのコミュニケーションを取る機会減少も懸念されるため、集会などでの大人同士の交流を増やしたいと考える。食事は持ち帰りにするなど、コロナ禍でもできるだけ交流を持てる方法を模索している。



左から西村豊氏(事務局長)、大川修氏(副会長)、澤村健一氏(会計)、取材時撮影